

原木シイタケ再生を期す栽培技術研修会開催

1 はじめに

林業技術センターでは原木シイタケの産地再生に向けた研修として、「原木シイタケ栽培技術研修」を実施しています。特に、放射性物質影響による出荷制限等の指示以降は、中堅生産者を対象にしたビニールハウスなど施設を活用した応用研修において、生産再開のための「環境影響」（放射性物質影響からの遮断）と「ハウス内仮伏せ」（ホダ化促進技術）など、喫緊の課題について研修を実施しています。

2 研修実施

平成27年1月26日、県庁林業振興課、一関農林振興センターと連携し、「平成26年度原木シイタケ栽培技術研修会（ハウス内仮伏せ）」を開催しました。

今年度の応用研修を行った一関市は、国からの出荷制限指示により、露地栽培原木シイタケが販売できない状況ですが、生産意欲の維持と技術の向上のため、4年ぶりに開催しました。



【野外実習 歌津野城戸椎茸生産組合施設】

研修当日は、原木シイタケ栽培経験者（36名）、林業普及指導員等（4名）の計40名が出席して、野外実習、室内講義を実施しました。

野外実習では、一関市大東町「歌津野城戸椎茸生産組合」の組合長 菊池俊秋氏が所有する

ハウス内で被覆資材を用いて行う仮伏せ技術の実践と工夫について説明しました。

その後、大原公民館に移動しての講義では、菊池氏が自ら作成したプレゼンテーション資料で「岩手県南地域のシイタケ再生への挑戦（ハウス内仮伏せ、放射能対策）」と題して講義を行いました。建設業から異業種参入して平成20年度から施設整備・植菌開始し、22年度から乾シイタケ出荷。放射性物質影響による被災者となってからは、約2年半で50回以上にわたり東京電力㈱と損害賠償請求を行ったことなど、具体的な対応についての情報提供がありました。



【室内講義 菊池俊秋氏】

3 研修を終えて

現在、県では、原木シイタケ及びホダ木の全戸検査を行うとともに、出荷制限解除の条件となる「原木きのこ栽培管理チェックシート」による適切な生産管理指導など、露地栽培の原木シイタケ出荷制限解除に向けた取組みを実施しているところです。

今回の研修は、一関市の生産者にとっては、原木シイタケ産地再生に向け、新たに決意を期する研修となりました。